

レクリエーション協会公認資格を持つ
介護福祉士へのアンケート調査結果報告書

求められる介護福祉士像に向けた養成カリキュラム・
シラバスの改善、改良への寄与を目指して

平成 18 年 10 月

財団法人 日本レクリエーション協会
日本レクリエーション協会公認指導者養成課程認定校研究連絡会議
全国福祉レクリエーション・ネットワーク

目 次

1 . アンケート調査及び、本報告書の趣旨

- (1) アンケート調査の趣旨 p. 1
- (2) 本報告書の趣旨 p. 2

2 . アンケート調査の概要

- (1) 介護現場での活用の様子から見たレクリエーションの学習効果 p. 3
- (2) 介護福祉士として振り返ってのレクリエーションの学習への評価 p. 5

3 . アンケート結果 (詳細)

- (1) アンケート調査の概要 p. 7
- (2) 回答者の属性 p. 8
- (3) レクリエーションに関する業務・仕事の状況 p.10
- (4) 現在の仕事から見た、レクリエーションの学習科目への評価 p.12
- (5) 現場におけるレクリエーションの知識、技術の活用と効果 p.16
- (6) 介護の仕事をする上での、レクリエーションの学習科目の重要度 p.20

参考資料：アンケート調査票（設問部分）

1. アンケート調査及び、本報告書の趣旨

(1) アンケート調査の趣旨

アンケート調査のねらい

当協会では、この度、「介護福祉士資格をお持ちのレクリエーション・インストラクター及び福祉レクリエーション・ワーカー緊急アンケート」調査を実施し、その結果を本報告書としてとりまとめた。このアンケート調査のねらいを、以下に記す。

介護福祉士としての活動（介護の）現場から見た、介護福祉士養成の過程におけるレクリエーションの学習効果、意義を明らかにすること
その結果を公開し、尊厳あるケアの実現や、自立支援の拡充、そのための介護福祉士のコミュニケーション等諸能力の向上に向けた、介護福祉士養成のカリキュラム・シラバスの具体化に寄与すること

アンケート調査実施の背景

当協会は、文部科学省所轄の特定公益増進法人として、レクリエーション協会公認資格保持者の養成と、公認資格保持者の活動を通じた国民各年齢層にわたる健やかな生活の実現に取り組んできた。また、公認資格保持者の活動支援と、組織的な公益への寄与を目的とした都道府県、市区町村レクリエーション組織の育成、支援にも力を尽くしている。

戦後 60 年を超える当協会の歴史の中で、先にあげたような活動と、介護福祉士の育成、活動は、以下に例示するような、密接な関係を持つようになってきている。

- ・当協会の公認資格保持者 12 万の 8 ～ 9 割が福祉施設に勤務し、介護等の業務の中でレクリエーションを活用している。
- ・こうした活動を続ける、4 万人を超える当協会公認資格保持者が、介護福祉士の有資格者となっている。
- ・介護福祉士と当協会公認資格双方を保持している方々の多くが、当協会の公認資格の登録の更新を続けている。
- ・当初その増加が急務であった介護福祉士養成施設、講座の充実についても、福祉レクリエーション・ワーカー（当協会公認資格）の養成事業を拡充し、施設教員の充足に寄与してきた。

こうした介護福祉士の養成、活動と当協会の活動との深い関係を踏まえ、「新たな介護福祉士の養成と生涯を通じた能力開発」を目指す取り組みに寄与すべく、前述のアンケート調査を実施することとなった。

(2) 本報告書の趣旨

本報告書作成のねらい

周知の通り、「これからの介護を支える人材について」(介護福祉士のあり方及びその養成プロセスの見直し等に関する検討会報告書)において、新しい介護福祉士の養成の方向性が示され、それらを具現化するカリキュラム・シラバスの検討・具体化が今後の課題とされている。そこで、本報告書では、介護の現場の声から浮かび上がるレクリエーションの学習内容の評価及びその充実の方向性を紹介することとあわせ、その結果に考察を加え、様々な介護福祉士養成に関わる機関、施設等において、よりよいカリキュラム・シラバスを検討する際に寄与し得る参考資料の提供を目指した。

本報告書作成の背景

当協会としては、時代の要請と、「これからの介護を支える人材について」でも示されている将来への展望を踏まえた大きな改革の方向性に賛同し、その実現に寄与すべく取り組みを始めている。本報告書も、その一環として位置づけることができる。

また、「これからの介護を支える人材について」で強調されている、尊厳あるケアの実現の視点や、自立支援の観点からの介護の拡充という視点について、レクリエーションの立場から大いに寄与できる可能性を示唆する介護の現場からの声も、従来より、当協会に多く寄せられてきている。こうした声(試みに例を下記する)もまた、参考資料として本報告書の作成に取り組む要因となっている。

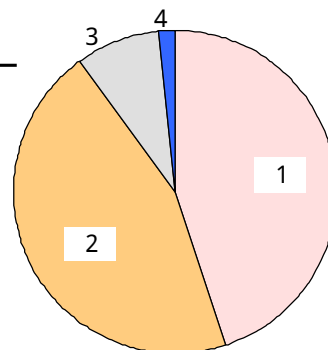
- ・在宅介護で、手遊びや当時の流行歌等を通して利用者や利用者家族とのコミュニケーションを促進している。野菜の水耕栽培を利用者で行う等、調理の自立に向けた共同作業の導入として趣味活動的な遊びを積極的に活用している。入浴時や清拭の際にBGMにあわせて身体を動かすなど、楽しい雰囲気の中で心身の機能の維持に努めている。
- ・入居施設で、地域との交流やボランティア活用を通じた介護の充実の際には、レクリエーションが中心になっている。入居ユニットの快適で喜びを感じられる空間づくりに、余暇歴を中心としたアセスメントを兼ねたお茶のみ話で把握した利用者の嗜好を反映させている。
- ・かつての趣味や楽しい思い出話の実施を心がけており、そこで利用者の輝いていた頃の姿を知ることによって、利用者に尊敬の念を持って接しられるようになった。遊びの中で、力をあわせて課題に挑戦することを通して、単に良好なだけでなく、互いに支え合える利用者間の人間関係が築けた。

2 . アンケート結果の概要

アンケート結果からは、現場に向かう介護福祉士が、その養成の過程でレクリエーションの学習をすることの重要性が浮かび上がっている（図1 - 1 参照）。

図1 1：福祉、医療の仕事をする上での、レクリエーションの学習の重要度

- 1 . 非常に重要である（44.9%）
- 2 . まあ重要である（45.2%）
- 3 . どちらともいえない（8.2%）
- 4 . あまり重要でない（1.7%）
- 5 . 全く重要でない（0.1%）



図Aに代表されるような回答結果は、以下（1）で紹介する介護の現場から見た、レクリエーションの効果、評価を大きな要因としていると思われる。

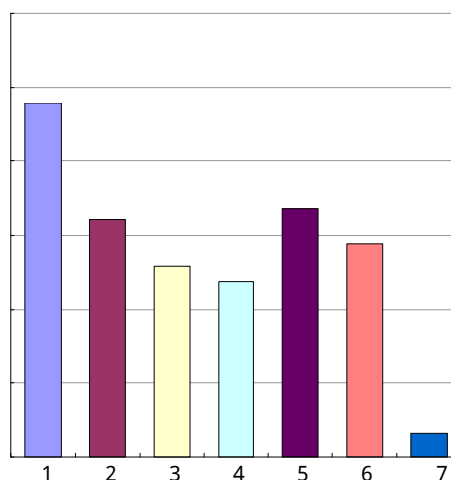
（1）介護現場での活用の様子から見たレクリエーションの学習効果

コミュニケーション促進への高い効果

レクリエーションの知識、技術を活用することで、利用者と介護者とのコミュニケーション促進という効果を引き出しているとする回答が多い。（図1 - 2 選択肢1 参照）また、利用者同士のコミュニケーションの促進についての効果を指摘する声も少なくない（図1 - 2 選択肢5）

図1 - 2：レクリエーションの知識、技術を活用することで起こり得る具体的な効果

- 1 . 利用者とのコミュニケーションの促進（479 回答数）
- 2 . 生活の意欲付け（320）
- 3 . リハビリの意欲付け（258）
- 4 . 個別ケアの質の向上（238）
- 5 . 利用者同士等の仲間づくり（336）
- 6 . 施設全体の雰囲気づくり（288）
- 7 . その他（32）



自立支援に向けた意欲付けへの高い効果

同様に図1 - 2（前ページ）からは、レクリエーションの知識、技術の活用が、生活の意欲（選択肢2）やりハビリの意欲（選択肢3）を高める効果を持つこと、もう一步踏み込むならば、自立への意欲づけへの効果を持つことが浮かび上がっている。なお、図1 - 2は、レクリエーションの知識や技術を仕事で活用しているとした回答者（58%）からの回答である。

手段としてのレクリエーション活用の有効性への示唆

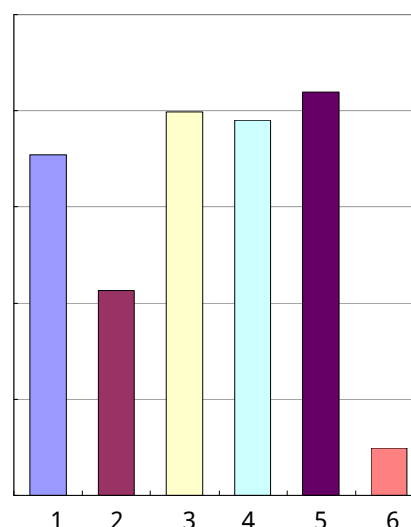
図1 - 2において、回答者は1人平均3.3項目に回答している。また、レクリエーションを活用しているとする者の9割がその効果を実感している。加えて、心身の機能の刺激を目的とした遊びの提供が、レクリエーションに関連する業務の内容としてもっとも多く挙げられている（図1 - 3参照。なお回答者は図Bと同じ）。

こうしたことを考えあわせるならば、幅広い効果を実感しながら、レクリエーションの知識や技術を活用している介護福祉士の姿が浮かび上がる。同時に、楽しい時間や気晴らしとなるアクティビティを提供することを超え、自立に向けた利用者自身の前向きな姿勢を引き出す手段といったレクリエーションの意義が、現場において見いだされているとの推察も可能となる。

個々の利用者の介護の目標に向けて、残された感性等を刺激し、生活の快をもたらす配慮をほどこしたり、具体的なアクティビティ、遊びのメニューを提供する。昨今、レクリエーション活動援助を巡り主要な思潮となっている、こうした幅広い支援のあり方の理解と、自立支援という文脈での介護諸業務の質を向上させる手段としてのレクリエーションの活用というアンケートから浮かび上がる現場の傾向が深く重なり合っていることにも注意を払いたい。

図1 - 3：レクリエーションに関する仕事の形態

- 1．グループレクリエーションの指導（305）
- 2．個別レクリエーションの指導（213）
- 3．イベント//行事等の企画と運営（399）
- 4．ゲームや歌、踊りなどの指導（390）
- 5．心身の機能の刺激を目的とした遊びの提供（420）
- 6．その他（49）



(2) 介護福祉士として振り返ってのレクリエーションの学習への評価

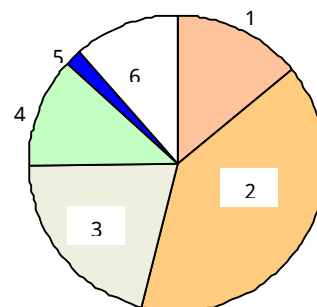
「私が実際に働いた特別養護老人ホームでの介護の現場において、養成校で学んだことを振り返って・・・(中略)・・・現場で有効であったのは、障害の理解、基本的なコミュニケーション方法・・・(中略)・・・レクリエーションなど」が挙げられるとする声(『新しい介護福祉士の養成と障害を通じた能力開発』株式会社法研、平成18年9月8日第1刷発行、p.137L4~7)もあるように、レクリエーションを学習し現場に臨むことには、大きな効果が期待できるようである。アンケート結果からも、こうした期待は裏付けられている。

学習の效果に否定的な理由としての非実践性

介護福祉士の学習過程でレクリエーションを学習したことが、仕事に効果をもたらしていないと否定的な評価をする回答者は、1割五分程度にとどまっている(図1-4参照。なお、介護職についていると断定可能な回答者に限定すると、62%が学習の効果があるとされている)。

図1-4：レクリエーションの学習科目の、仕事への効果

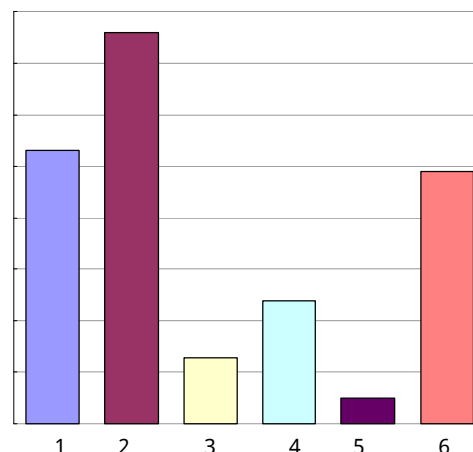
1. 非常に効果があった(14.1%)
2. やや効果があった(39.7%)
3. どちらでもない(20.8%)
4. あまり効果がなかった(12.0%)
5. 全く効果がなかった(1.9%)
6. 無回答(11.4%)



否定的な回答の理由を尋ねたところ、学習内容が利用者にあっていなかった、実践的でなかったとする傾向が強いことがわかった(図1-5)。

図1-5：仕事への効果が無かった理由

1. 学習内容が実践的でなかった(53 回答数)
2. 学習内容が高齢者、障害者向けでなかった(76)
3. 指導者(教員)が福祉現場を理解していなかった(13)
4. 座学ばかりで技術が習得できなかった(24)
5. 実技中心で知識が身に付かなかった(5)
6. その他(49)



利用者への働きかけに直結する学習内容がより重要だとされる傾向

レクリエーションの学習の重要性が、全体として強く指示されていることはすでに触れた通りだ（図A参照）。既存のレクリエーション活動援助法の授業内容ごとの重要度については、「利用者とレクリエーション」、「高齢者のレクリエーション援助」、「障害者のレクリエーション援助」といった、現場での利用者への働きかけと直接関連する授業内容がより重要度が高く評価されているという傾向がみられる（表1-1参照）。

表1-1：レクリエーションの授業内容の重要度

	1.非常に重要である	2.まあ重要である	3.どちらともいえない	4.あまり重要でない	5.全く重要でない
レクリエーションの基本的理解	49.2%	43.0%	6.5%	1.1%	0.2%
社会福祉とレクリエーションの意義	40.6%	44.5%	12.8%	1.7%	0.5%
利用者とレクリエーション	70.0%	26.9%	2.9%	0.2%	0.0%
集団とレクリエーション	48.8%	42.2%	8.1%	0.8%	0.1%
レクリエーション活動計画の作成及び実施	49.8%	39.3%	9.3%	1.4%	0.3%
レクリエーション活動援助者の役割	49.9%	41.3%	7.7%	1.0%	0.1%
治療的意味合いを含めたレクリエーション活動の必要性	50.1%	38.3%	10.4%	0.8%	0.4%
高齢者のレクリエーション援助	66.7%	29.7%	3.4%	0.3%	0.0%
障害者のレクリエーション援助	61.3%	30.7%	7.1%	0.6%	0.3%

求められる介護福祉士像に沿ったレクリエーションの学習内容の改善

現場から振り返った学習の肯定的評価（図1-1、表1-1等）、否定的な評価（図1-5）のいずれも共通して、利用者と直面する際に活用可能な知識、技術を習得できる内容が今後のレクリエーションの学習に強く求められることを示唆している。加えて、レクリエーションの現場での有効性を示す現場からの声（図1-2、図1-3等）は、コミュニケーション促進の手段、あるいは、リハビリや生活動作の意欲付け等自立支援の手段という学習内容の実践性、手段性を高める方向性をも示唆している。

周知のように、コミュニケーション能力、自立支援の能力は、今後ますます重要性を高める介護福祉士の能力であり、求められる介護福祉士像の中核をなすものであろう。アンケート結果からの上記した示唆は、そうした中核となる能力の向上を目指す介護福祉士養成時の学習内容の改善、改良に、レクリエーションの学習内容の改善、改良が分かちがたく結びついていることへの示唆ともなっている。

3 . アンケート結果 (詳細)

(1) アンケート調査の概要

本報告書に先立ち実施した「介護福祉士資格をお持ちのレクリエーション・インストラクター及び福祉レクリエーション・ワーカー緊急アンケート」調査の概要は次の通り。

アンケートの対象

- ・介護福祉士資格を取得しており、かつ、レクリエーション・インストラクターもしくは福祉レクリエーション・ワーカー（いずれも日本レクリエーション協会公認指導者資格）41,568名

アンケート実施期間

- ・平成 18 年 8 月 4 日郵送 ~ 平成 18 年 9 月 1 日回収締め切り

アンケート送付者数

- ・10,000名（上記対象から、実際の年齢構成に即してランダムに抽出）

アンケート回答者数

- ・1,105

アンケート実施主体

財団法人日本レクリエーション協会
日本レクリエーション協会公認指導者養成課程認定校研究連絡会議
全国福祉レクリエーション・ネットワーク

(2) 回答者の属性

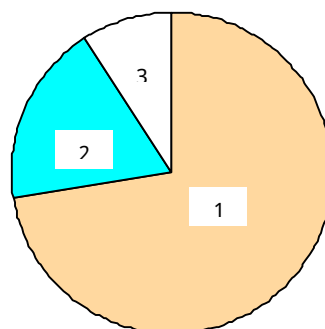
回答者の属性には、次のような傾向が見られる。

女性が7割を超える(図2-1参照)

10歳代後半から20歳代にかけての年齢層が5割を超える(図2-2参照)

図2-1: 性別

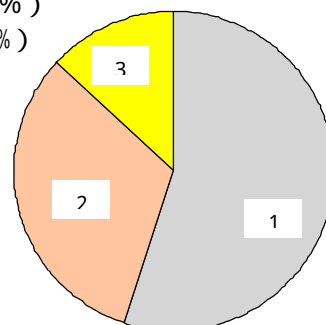
- 1. 女性(72.6%)
- 2. 男性(18.4%)
- 3. 無回答(9.0%)



当協会登録データとの照合結果より

図2-2: 年齢

- 1. 10~20歳代(55.1%)
- 2. 30~40歳代(31.8%)
- 3. 50~60歳代(13.0%)



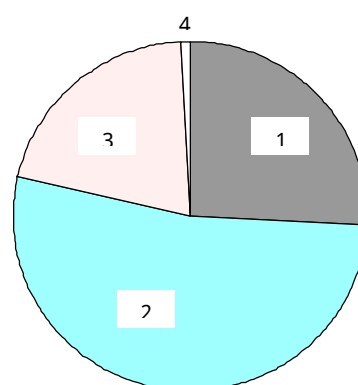
当協会登録データとの照合結果より

勤務先は、入所・施設系が5割を超え、「在宅・通所サービス」は3割弱となっている(図2-3参照)。

7年以上勤務しているものが3割強ともっとも多く、1年以上3年未満(2割程度)がその後に続く(図2-4参照)。

図2-3：勤務先の種別

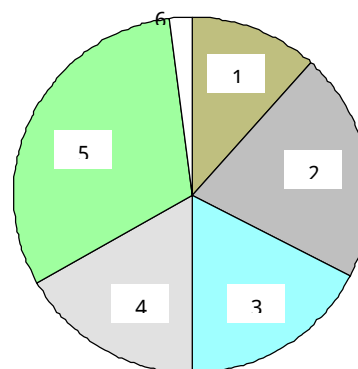
- 1. 在宅・通所系サービス (25.9%)
- 2. 入所・施設系サービス (52.7%)
- 3. その他 (20.6%)
- 4. 無回答 (0.8%)



アンケート調査票設問1 より

図2-4：勤務年数

- 1. 1年未満 (11.7%)
- 2. 1年以上3年未満 (20.9%)
- 3. 3年以上5年未満 (17.5%)
- 4. 5年以上7年未満 (16.7%)
- 5. 7年以上 (31.3%)
- 6. 無回答 (2.0%)



アンケート調査票設問1 より

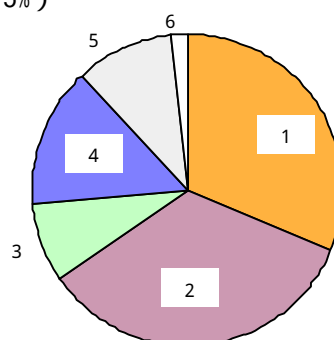
(3) レクリエーションに関する業務・仕事の状況

回答者のうち、レクリエーションに関連する業務があるとするものが、6割5分程度を占めている(図3-1)。

関連する業務があるとするものを対象として、その業務における立場を尋ねたところ、レクリエーションを実施する際にその係として担当するといった立場がもっとも多く、次いで日常業務の一環として実施している立場があげられている(図3-2)。

図3-1: レクリエーションに関連する業務の有無

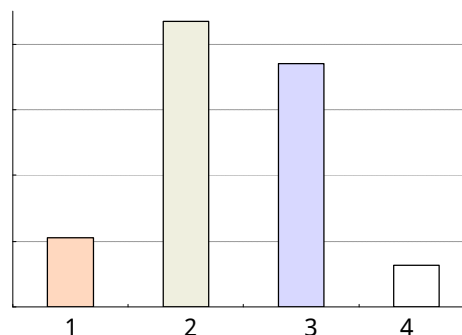
- 1. 大いにある(31.3%)
- 2. ややある(33.9%)
- 3. どちらともいえない(8.5%)
- 4. あまりない(14.5%)
- 5. 全くない(10.3%)
- 6. 無回答(1.5%)



アンケート調査票設問4 より

図3-2: レクリエーション支援を行う際の立場

- 1. レクの専門職(106 回答数)
- 2. レク係等担当として(433)
- 3. 日常業務の一環として(370)
- 4. その他(64)



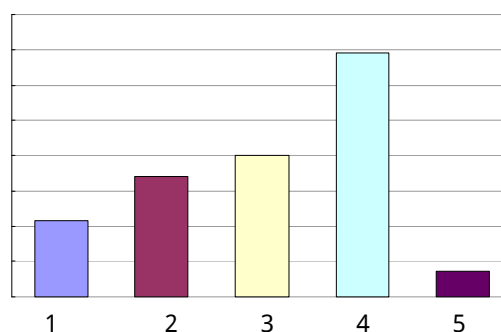
アンケート調査票設問4 b)より

また、レクリエーションに関連する業務があるとしてもものに、その形態を尋ねたところ、「ほぼ毎日」とする回答がもっとも多く、「週間単位」とする回答数が次に続いた（図3 - 3参照）。

さらに、レクリエーションに関連する業務の内容について尋ねたところ、「心身の機能の刺激を目的とした遊びの提供」がもっとも多かった。なお、一般にはレクリエーションが集団対象のみの支援の手段とされているきらいもあるが、「個別レクリエーションの指導」も少なからず回答が寄せられていることにも注意を払いたい（図1 - 3再掲）。

図3 - 3：レクリエーションに関する仕事の形態

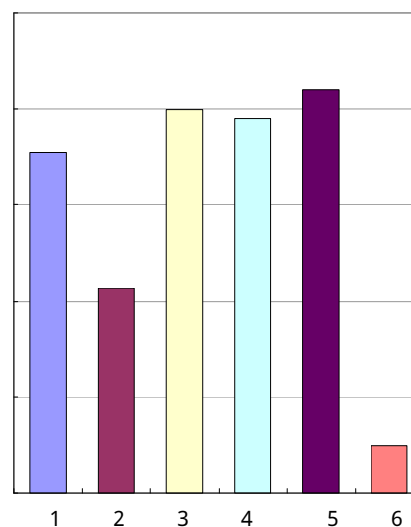
- 1．年間単位（107 回答数）
- 2．月間単位（171）
- 3．週間単位（200）
- 4．ほぼ毎日（346）
- 5．その他（36）



アンケート調査票設問4 a)より

図1 - 3：レクリエーションに関する仕事の形態（再掲）

- 1．グループレクリエーションの指導（305）
- 2．個別レクリエーションの指導（213）
- 3．イベント/行事等の企画と運営（399）
- 4．ゲームや歌、踊りなどの指導（390）
- 5．心身の機能の刺激を目的とした遊びの提供（420）
- 6．その他（49）



アンケート調査票設問4 a)より

(4) 現在の仕事から見た、レクリエーションの学習科目への評価

介護福祉士資格取得の過程で学んだレクリエーションの学習科目（レクリエーション活動援助法等）の評価を、現在の仕事に対する学習成果の貢献度という視点で尋ねた。

レクリエーションの学習成果の仕事への貢献度

A. レクリエーションの学習が仕事に効果をもたらしている

表4-1からは、介護福祉士の資格取得過程で学んだレクリエーションの学習科目（レクリエーション指導法、もしくはレクリエーション活動援助法）が、下記のように、介護の仕事に何らかの効果をもたらしている（貢献している）と評価されていることが浮かび上がる。

全体では61%がレクリエーションの学習成果が仕事に効果をもたらしている（非常に効果あり、やや効果ありの回答をあわせて）としている。

職場が、在宅・通所系サービスの回答者では、その割合は71%に及ぶ。仕事の従事年数では、7年以上従事している回答者の69%が、レクリエーションの学習の効果を認めている。

レクリエーションに関連する業務が大いにあるとする回答者の75%が、効果があるとしている。また、レクリエーションに関連する業務がややあるという回答者においても、66%が効果があるとしている。

レクリエーションに関連する業務を行う際の立場に注目すると、専門職という立場の場合は92%、日常業務の一環という立場の場合でも66%が効果があるとしている。

B. コミュニケーション促進や自立に向けた意欲付けという効果の内容

表4-2からは、コミュニケーションの促進や、利用者の自立に向けた意欲付けにレクリエーションの学習成果が貢献していることが浮かび上がる。

全体では、具体的な効果の内容として、コミュニケーションの促進とする回答数ももっとも多く、総回答数のうち25%を占めている。生活動作の自立への意欲付けの総回答数に占める割合14%とリハビリへの意欲付けの13%をあわせると、利用者の自立に向けた意欲付けが27%を占めている。

こうした傾向は、職場、仕事の従事年数、レクリエーションに関連する業務の有無、レクリエーションに関連する業務を行う際の立場で比較した場合も、同様に見られる。

表4 - 1 : 現在の仕事に対するレクリエーションの学習の成果・貢献度

		1.非常に効果有り	2.やや効果有り	3.どちらとも言えない	4.あまり重要でない	5.全く重要でない
回答者全体		157 16.0%	441 44.9%	231 23.5%	133 13.5%	21 2.1%
職場	在宅 通所系 サービス	60 23.6%	121 47.6%	43 16.9%	27 10.6%	3 1.2%
	入所 施設系 サービス	66 12.2%	245 45.2%	143 26.4%	80 14.8%	8 1.5%
仕事 従事 年数	1年未満	15 13.5%	46 41.4%	28 25.2%	20 18.0%	2 1.8%
	1年以上 3年未満	21 10.2%	93 45.4%	59 28.8%	25 12.2%	7 3.4%
	3年以上 5年未満	22 12.4%	83 46.6%	44 24.7%	22 12.4%	7 3.9%
	5年以上 7年未満	20 12.1%	75 45.5%	44 26.7%	23 13.9%	3 1.8%
	7年以上	81 26.0%	134 43.1%	53 17.0%	42 13.5%	1 0.3%
関連 業務	レクに関連する業務 がおおいにある	92 29.6%	141 45.3%	43 13.8%	33 10.6%	2 0.6%
	レクに関連する業務 がややある	49 14.0%	183 52.4%	76 21.8%	40 11.5%	1 0.3%
業務 時の 立場	専門職として	46 46.5%	45 45.5%	3 3.0%	4 4.0%	1 1.0%
	係など担当者として	76 18.8%	200 49.5%	74 18.3%	50 12.4%	4 1.0%
	日常業務の一環とし て	52 15.6%	167 50.2%	68 20.4%	42 12.6%	4 1.2%

上段回答数、下段割合

< 設問2 - より >

表4-2：レクリエーションの学習効果の内容

表4-1で非常に効果があった、やや効果があったとした回答者のみ

		1.グループ援助の方法	2.イベント企画・運営	3.仲間づくり	4.コミュニケーションの促進	5.生活動作の自立への意欲付け	6.リハビリへの意欲付け	7.その他
回答者全体		303 19.1%	252 15.9%	190 12.0%	389 24.5%	220 13.9%	203 12.8%	29 1.8%
職場	在宅・通所系サービス	95 19.7%	62 12.9%	62 12.9%	126 26.1%	70 14.5%	67 13.9%	7 1.5%
	入所・施設系サービス	153 18.8%	147 18.0%	94 11.5%	198 24.3%	110 13.5%	100 12.3%	13 1.6%
仕事従事年数	1年未満	31 18.8%	27 16.4%	22 13.3%	42 25.5%	23 13.9%	18 10.9%	2 1.2%
	1年以上3年未満	44 15.3%	46 16.0%	33 11.5%	77 26.8%	42 14.6%	38 13.2%	7 2.4%
	3年以上5年未満	56 20.9%	43 16.0%	37 13.8%	65 24.3%	34 12.7%	28 10.4%	5 1.9%
	5年以上7年未満	45 18.9%	42 17.6%	24 10.1%	62 26.1%	33 13.9%	29 12.2%	3 1.3%
	7年以上	125 20.1%	90 14.5%	77 12.4%	141 22.7%	88 14.1%	88 14.1%	13 2.1%
関連業務	レクに関連する業務がおおいにある	139 20.1%	103 14.9%	97 14.0%	163 23.6%	93 13.5%	96 13.9%	14 2.0%
	レクに関連する業務がややある	101 17.4%	99 17.1%	59 10.2%	141 24.4%	89 15.4%	78 13.5%	12 2.1%
業務時の立場	専門職として	55 17.6%	44 14.1%	48 15.3%	68 21.7%	47 15.0%	45 14.4%	6 1.9%
	係など担当者として	150 19.3%	138 17.7%	87 11.2%	181 23.3%	103 13.2%	108 13.9%	11 1.4%
	日常業務の一環として	108 17.9%	95 15.7%	72 11.9%	150 24.8%	88 14.5%	80 13.2%	12 2.0%

上段回答数、下段総回答数に占める該当項目の回答数の割合

< 説明2 - より >

効果がないとの評価の理由は、利用者にそぐわない、非実践的な授業

レクリエーションの学習が仕事上の効果をもたらしていないとする回答者（表4 - 1で、あまり効果が無かった、全く効果がなかったとした回答者）は、14%にとどまっている。しかし、その回答理由（下記）からは、より一層、福祉現場に臨む際の利用者にあったもの、実践的なものにしていくという、レクリエーションの学習内容充実の方向性が浮かび上がってくる（図1 - 5参照）。

「学習内容が高齢者、障害者向けでなかった」とする回答が76ともっとも多かった。

「学習内容が実践的でなかった」とする回答が53と、2番目に多かった。

レクリエーション活動援助法等に加えて、レクリエーションを学習しているケースも少なくない

以下のように、レクリエーション指導法、もしくはレクリエーション活動援助法以外のレクリエーション関連の科目を受講していたとする回答者も少なくない

レクリエーション実技系科目：回答数 702

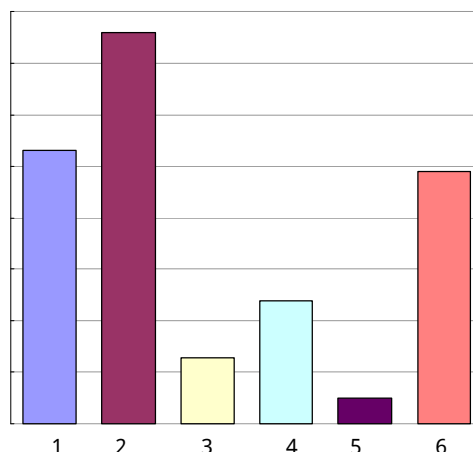
レクリエーション実技系科目にはゲーム、ソング、ダンス、クラフト、ニュースポーツ等が含まれる。

福祉レクリエーション系科目：回答数 425

福祉レクリエーション系科目は福祉レクリエーション論、福祉レクリエーション援助演習等

図1 - 5：仕事への効果が無かった理由
（再掲）

1. 学習内容が実践的でなかった（53 回答数）
2. 学習内容が高齢者、障害者向けでなかった（76）
3. 指導者（教員）が福祉現場を理解していなかった（13）
4. 座学ばかりで技術が習得できなかった（24）
5. 実技中心で知識が身に付かなかった（5）
6. その他（49）



(5) 現場におけるレクリエーションの知識、技術の活用と効果

福祉、医療現場においてレクリエーションが持つ効果を、回答者がそれぞれの仕事でレクリエーションの知識、技術がいかに活用され、どのような効果があると考えられているのかという視点から尋ねた。

レクリエーションの知識、技術の活用状況

下記するように、仕事にレクリエーションの知識や技術を活用している回答者が多く、現場での高い活用状況が浮かび上がる(表5 - 1 参照)。

回答者全体としては、59%がレクリエーションの知識や技術を活用している(大いに活用している、やや活用している合わせて)。

職場が在宅・通所系サービスの回答者では、73%が活用している(大いに活用しているとするものだけでも27%)。

仕事の従事年数では、7年以上の場合が66%と活用しているとする割合がもっとも高い。

表5 - 1 : 仕事での、レクリエーションの知識、技術の活用状況

		1.大いに活用している	2.やや活用している	3.どちらとも言えない	4.あまり活用していない	5.全く活用していない
回答者全体		182 16.8%	457 42.2%	147 13.6%	191 17.6%	107 9.9%
職場	在宅・通所系サービス	79 27.1%	132 45.4%	30 10.3%	32 11.0%	18 6.2%
	入所・施設系サービス	77 13.0%	264 44.7%	88 14.9%	124 21.0%	38 6.4%
仕事従事年数	1年未満	7 5.5%	54 42.2%	21 16.4%	26 20.3%	20 15.6%
	1年以上3年未満	29 12.7%	104 45.6%	34 14.9%	42 18.4%	19 8.3%
	3年以上5年未満	31 16.0%	79 40.7%	32 16.5%	32 16.5%	20 10.3%
	5年以上7年未満	26 14.4%	84 46.4%	18 9.9%	36 19.9%	17 9.4%
	7年以上	91 26.6%	133 38.9%	39 11.4%	52 15.2%	27 7.9%

上段回答数、下段割合

< 設問5 - より >

広く認められているレクリエーションの知識、技術の活用の効果

仕事にレクリエーションの知識、技術を活用している(表5-1の大きいに活用している、やや活用しているに回答したもの)場合、下記のように、非常に高い割合で、レクリエーションの効果が認識されている(表5-2)

全体としては、92%が効果があるとしている。

職場が在宅・通所系サービスの回答者においても92%が効果があると

しており、とりわけ大きいに効果があるとするものが35%と高い割合を示している。

仕事の従事年数では、3年以上5年未満で33%、7年以上で38%と、大きいに効果があるとするものの割合が高くなっている。

表5-2：レクリエーションの知識、技術の活用による効果の有無

表5-1で大きいに活用している、やや活用しているとした回答者のみ

		1. 大きいに効果がある	2. やや効果がある	3. どちらとも言えない	4. あまり効果がない	5. 全く効果がない
回答者全体		189 29.3%	403 62.6%	41 6.4%	9 1.4%	2 0.3%
職場	職場が、在宅・通所系サービス	74 34.6%	123 57.5%	16 7.5%	1 0.5%	0 0.0%
	職場が、入所・施設系サービス	85 24.9%	228 66.9%	20 5.9%	7 2.1%	1 0.3%
仕事従事年数	1年未満	14 23.3%	40 66.7%	3 5.0%	3 5.0%	0 0.0%
	1年以上3年未満	29 21.6%	90 67.2%	13 9.7%	2 1.5%	0 0.0%
	3年以上5年未満	37 33.0%	65 58.0%	7 6.3%	3 2.7%	0 0.0%
	5年以上7年未満	27 24.1%	79 70.5%	4 3.6%	1 0.9%	1 0.9%
	7年以上	84 37.5%	126 56.3%	14 6.3%	0 0.0%	0 0.0%

上段回答数、下段割合

<設問5 - より>

コミュニケーション促進等多彩な活用の効果

下記のように、レクリエーションの知識、技術を活用することで引き出される効果の内容には、利用者とのコミュニケーションの促進がもっとも多くの回答数を示すなど、学習の効果と同様の傾向が見られる。また、個別ケアの質の向上に一定量の回答が寄せられるなど、集団でのゲームや歌の実施を目的にしている等パターン化した旧態依然のレクリエーションのイメージを、現場のレベルで乗り越えはじめていることを伺わせる結果も把握できる（表5 - 3 参照）。

全体では、利用者とのコミュニケーション促進（479）、利用者同士の仲間作り（336）など、コミュニケーションの促進に関連する効果ももっとも多く挙げられている

回答数 1951 の 42% を占める。

アンケート回答者数 1105 名に対しての上記 2 項目への回答人数 815 名で、回答率は 0.73 と高い。

全体では、生活の意欲付けに 320、リハビリへの意欲付けに 258 の回答が寄せられているなど、自立に向けた意欲付けに関連する効果も多く挙げられている。

回答数 1951 の 30% を占める

アンケート回答者数 1105 名に対しての上記 2 項目への回答人数 815 名で、回答率は 0.52 となっている。

個別ケアの質の向上への回答数は 238（全体）で、回答数の 12% を占めている。なお、アンケート回答者数 1105 名に対しての同項目 1 項目への回答人数 238 名、回答率は 0.22 と 5 名のうち 1 名を超える割合での回答が寄せられていることも注目される。

職場の違い、仕事の従事年数の違いでの比較においても、上記と共通の傾向が見られる

表5 - 3 : レクリエーションの知識、技術の活用の効果

表5 - 1 で大いに活用している、やや活用しているとした回答者のみ

		1.利用者とのコミュニケーション促進	2.生活の意欲付け	3.リハビリへの意欲付け	4.個別ケアの質の向上	5.利用者同士等の仲間作り	6.施設全体の雰囲気作り	7.その他
回答者全体		479 0.43	320 0.29	258 0.23	238 0.22	336 0.30	288 0.26	32 0.03
職場	在宅 通所系サービス	165 0.56	99 0.34	93 0.32	80 0.27	124 0.42	85 0.29	9 0.03
	入所 施設系サービス	256 0.43	179 0.30	132 0.22	129 0.22	172 0.29	176 0.30	8 0.01
仕事 従事 年数	1年未満	44 0.34	26 0.20	28 0.22	19 0.15	33 0.25	24 0.18	3 0.02
	1年以上 3年未満	95 0.41	65 0.28	47 0.20	40 0.17	77 0.33	62 0.27	4 0.02
	3年以上 5年未満	80 0.41	52 0.27	39 0.20	40 0.21	65 0.34	55 0.28	7 0.04
	5年以上 7年未満	92 0.50	50 0.27	42 0.23	42 0.23	50 0.27	52 0.28	10 0.05
	7年以上	168 0.48	127 0.37	103 0.30	98 0.28	111 0.32	95 0.27	8 0.02

上段回答数、下段それぞれに該当するアンケート回答者数に対する
該当項目の回答数の割合

< 設問5 - より >

(6) 介護の仕事をする上での、レクリエーションの学習科目の重要度

レクリエーションの学習科目に対して、介護の仕事をする上での重要度を尋ねたところ、重要であるとする回答者が非常に高い割合を占めている（図1 - 1参照）。また、レクリエーション活動援助法の、それぞれの授業内容についての重要度を尋ねたところ、すべての授業内容について重要であるとする回答者の割合は非常に高い。とりわけ、「利用者とレクリエーション」については非常に重要であるとする回答者の割合が70%と高くなっている。また「高齢者のレクリエーション援助」、「障害者のレクリエーション援助」についても、非常に重要であるとする回答者は、67%、61%と高くなっている（表1 - 1参照）。

図1 1：福祉、医療の仕事をする上での、レクリエーションの学習の重要度（再掲）

- 1．非常に重要である（44.9%）
- 2．まあ重要である（45.2%）
- 3．どちらともいえない（8.2%）
- 4．あまり重要でない（1.7%）
- 5．全く重要でない（0.1%）

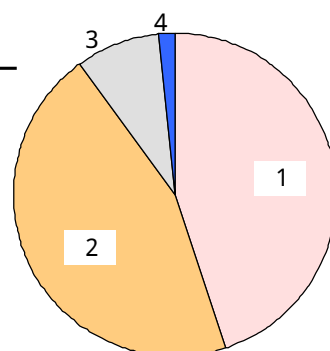


表1 - 1：レクリエーションの授業内容の重要度（再掲）

	1．非常に重要である	2．まあ重要である	3．どちらともいえない	4．あまり重要でない	5．全く重要でない
レクリエーションの基本的理解	49.2%	43.0%	6.5%	1.1%	0.2%
社会福祉とレクリエーションの意義	40.6%	44.5%	12.8%	1.7%	0.5%
利用者とレクリエーション	70.0%	26.9%	2.9%	0.2%	0.0%
集団とレクリエーション	48.8%	42.2%	8.1%	0.8%	0.1%
レクリエーション活動計画の作成及び実施	49.8%	39.3%	9.3%	1.4%	0.3%
レクリエーション活動援助者の役割	49.9%	41.3%	7.7%	1.0%	0.1%
治療的意味合いを含めたレクリエーション活動の必要性	50.1%	38.3%	10.4%	0.8%	0.4%
高齢者のレクリエーション援助	66.7%	29.7%	3.4%	0.3%	0.0%
障害者のレクリエーション援助	61.3%	30.7%	7.1%	0.6%	0.3%

表6 - 1 - 1 ~ 表6 - 1 - 3で、レクリエーション活動援助法の9つの授業内容の重要度について、職場、レクリエーションに関わる業務の有無、仕事の従事年数による比較をまとめた。いずれも表中のパーセント表示は、職場等の違いそれぞれに該当する回答者の中での、アンケート回答人数に対する回答数の割合である（データはいずれも設問7 ~ より）。

表6 - 1 - 1 : 「レクリエーションの基本的理解」、「社会福祉とレクリエーション」、「利用者とレクリエーション」の重要度

レクリエーションの基本的理解	1.非常に重要である	2.まあ重要である	3.どちらともいえない	4.あまり重要でない	5.全く重要でない
職場が、在宅・通所系サービス	50.7%	41.3%	6.6%	1.0%	0.3%
職場が、入所・施設系サービス	47.5%	44.2%	6.8%	1.4%	0.2%
レクに関連する業務大いにあり	59.6%	36.1%	4.9%	0.9%	0.0%
レクに関連する業務ややあり	51.0%	48.5%	4.5%	0.6%	0.0%
1年未満(仕事従事年数)	52.0%	39.4%	6.3%	1.6%	0.8%
1年以上3年未満(仕事従事年数)	47.6%	44.6%	7.4%	0.4%	0.0%
3年以上5年未満(仕事従事年数)	45.1%	47.7%	4.7%	2.6%	0.0%
5年以上7年未満(仕事従事年数)	40.9%	46.4%	9.9%	2.8%	0.0%
7年以上(仕事従事年数)	48.4%	39.8%	10.6%	1.2%	0.0%
社会福祉とレクリエーションの意義					
職場が、在宅・通所系サービス	43.8%	42.7%	11.5%	1.7%	0.3%
職場が、入所・施設系サービス	37.2%	46.5%	13.9%	1.7%	0.7%
レクに関連する業務大いにあり	47.4%	39.0%	11.0%	1.2%	0.0%
レクに関連する業務ややあり	41.2%	47.1%	14.3%	1.4%	1.0%
1年未満(仕事従事年数)	42.2%	43.0%	10.2%	3.9%	0.8%
1年以上3年未満(仕事従事年数)	30.6%	54.1%	13.1%	2.2%	0.0%
3年以上5年未満(仕事従事年数)	45.1%	47.7%	4.7%	2.6%	0.0%
5年以上7年未満(仕事従事年数)	40.9%	46.4%	9.9%	2.8%	0.0%
7年以上(仕事従事年数)	48.4%	39.8%	10.6%	1.2%	0.0%
利用者とレクリエーション					
職場が、在宅・通所系サービス	66.9%	28.9%	3.8%	0.3%	0.0%
職場が、入所・施設系サービス	71.7%	25.4%	2.7%	0.2%	0.0%
レクに関連する業務大いにあり	78.5%	19.4%	2.1%	0.0%	0.0%
レクに関連する業務ややあり	71.6%	15.2%	19.0%	0.3%	0.0%
1年未満(仕事従事年数)	52.0%	39.4%	6.3%	1.6%	0.8%
1年以上3年未満(仕事従事年数)	47.6%	44.6%	7.4%	0.4%	0.0%
3年以上5年未満(仕事従事年数)	45.1%	47.7%	4.7%	2.6%	0.0%
5年以上7年未満(仕事従事年数)	40.9%	46.4%	9.9%	2.8%	0.0%
7年以上(仕事従事年数)	48.4%	39.8%	10.6%	1.2%	0.0%

表6 - 1 - 2 : 「集団とレクリエーション」, 「レクリエーション活動計画の作成及び実施」, 「レクリエーション活動援助者の役割」の重要度

集団とレクリエーション	1.非常に重要である	2.まあ重要である	3.どちらともいえない	4.あまり重要でない	5.全く重要でない
職場が、在宅・通所系サービス	53.6%	37.8%	7.9%	0.7%	0.0%
職場が、入所・施設系サービス	45.6%	43.7%	9.5%	1.0%	0.2%
レクに関連する業務大いにあり	59.3%	36.0%	4.1%	0.6%	0.0%
レクに関連する業務ややあり	46.9%	46.4%	5.9%	0.5%	0.3%
1年未満(仕事従事年数)	52.0%	39.4%	6.3%	1.6%	0.8%
1年以上3年未満(仕事従事年数)	47.6%	44.6%	7.4%	0.4%	0.0%
3年以上5年未満(仕事従事年数)	45.1%	47.7%	4.7%	2.6%	0.0%
5年以上7年未満(仕事従事年数)	40.9%	46.4%	9.9%	2.8%	0.0%
7年以上(仕事従事年数)	48.4%	39.8%	10.6%	1.2%	0.0%
レクリエーション活動計画の作成及び実施					
職場が、在宅・通所系サービス	53.6%	34.1%	11.9%	0.3%	0.0%
職場が、入所・施設系サービス	45.9%	42.5%	9.0%	2.0%	0.5%
レクに関連する業務大いにあり	55.8%	35.8%	6.4%	1.7%	0.3%
レクに関連する業務ややあり	50.0%	41.4%	7.3%	1.1%	0.3%
1年未満(仕事従事年数)	54.3%	34.6%	8.7%	1.6%	0.8%
1年以上3年未満(仕事従事年数)	40.7%	49.4%	9.1%	0.9%	0.0%
3年以上5年未満(仕事従事年数)	45.1%	47.7%	4.7%	2.6%	0.0%
5年以上7年未満(仕事従事年数)	40.9%	46.4%	9.9%	2.8%	0.0%
7年以上(仕事従事年数)	48.4%	39.8%	10.6%	1.2%	0.0%
レクリエーション活動援助者の役割					
職場が、在宅・通所系サービス	59.5%	33.0%	7.2%	0.3%	0.0%
職場が、入所・施設系サービス	44.4%	45.7%	8.0%	1.7%	0.2%
レクに関連する業務大いにあり	53.0%	28.4%	4.6%	0.8%	0.0%
レクに関連する業務ややあり	45.4%	43.1%	6.8%	1.3%	0.3%
1年未満(仕事従事年数)	54.3%	34.6%	8.7%	1.6%	0.8%
1年以上3年未満(仕事従事年数)	40.7%	49.4%	9.1%	0.9%	0.0%
3年以上5年未満(仕事従事年数)	45.1%	47.7%	4.7%	2.6%	0.0%
5年以上7年未満(仕事従事年数)	40.9%	46.4%	9.9%	2.8%	0.0%
7年以上(仕事従事年数)	48.4%	39.8%	10.6%	1.2%	0.0%

表6 - 1 - 3 : 「治療的意味合いを含めたレクリエーション活動の必要性」、「高齢者のレクリエーション援助」、「障害者のレクリエーション援助」の重要度

治療的意味合いを含めたレクリエーション活動の必要性	1.非常に重要である	2.まあ重要である	3.どちらともいえない	4.あまり重要でない	5.全く重要でない
職場が、在宅・通所系サービス	52.2%	35.7%	10.3%	1.0%	0.7%
職場が、入所・施設系サービス	48.0%	39.7%	11.0%	1.0%	0.3%
レクに関連する業務大いにあり	51.9%	37.4%	9.6%	0.6%	0.6%
レクに関連する業務ややあり	47.6%	39.5%	11.6%	1.1%	0.3%
1年未満(仕事従事年数)	53.1%	34.4%	9.4%	3.1%	0.0%
1年以上3年未満(仕事従事年数)	47.8%	39.1%	11.7%	0.9%	0.4%
3年以上5年未満(仕事従事年数)	45.1%	47.7%	4.7%	2.6%	0.0%
5年以上7年未満(仕事従事年数)	40.9%	46.4%	9.9%	2.8%	0.0%
7年以上(仕事従事年数)	48.4%	39.8%	10.6%	1.2%	0.0%
高齢者のレクリエーション援助					
職場が、在宅・通所系サービス	72.4%	24.9%	2.0%	0.7%	0.0%
職場が、入所・施設系サービス	63.5%	32.3%	4.1%	0.2%	0.0%
レクに関連する業務大いにあり	75.7%	22.0%	2.3%	0.0%	0.0%
レクに関連する業務ややあり	65.7%	30.6%	3.5%	0.3%	0.0%
1年未満(仕事従事年数)	64.1%	30.5%	4.7%	0.8%	0.0%
1年以上3年未満(仕事従事年数)	68.5%	29.3%	1.7%	0.4%	0.0%
3年以上5年未満(仕事従事年数)	45.1%	47.7%	4.7%	2.6%	0.0%
5年以上7年未満(仕事従事年数)	40.9%	46.4%	9.9%	2.8%	0.0%
7年以上(仕事従事年数)	48.4%	39.8%	10.6%	1.2%	0.0%
障害者のレクリエーション援助					
職場が、在宅・通所系サービス	63.2%	28.9%	6.9%	1.0%	0.0%
職場が、入所・施設系サービス	58.2%	32.4%	8.1%	0.8%	0.3%
レクに関連する業務大いにあり	68.4%	24.3%	7.0%	0.3%	0.0%
レクに関連する業務ややあり	61.3%	31.7%	6.5%	0.5%	0.0%
1年未満(仕事従事年数)	65.6%	27.3%	6.3%	0.8%	0.0%
1年以上3年未満(仕事従事年数)	62.0%	33.2%	4.4%	0.0%	0.4%
3年以上5年未満(仕事従事年数)	45.1%	47.7%	4.7%	2.6%	0.0%
5年以上7年未満(仕事従事年数)	40.9%	46.4%	9.9%	2.8%	0.0%
7年以上(仕事従事年数)	48.4%	39.8%	10.6%	1.2%	0.0%

参考資料：アンケート調査票（設問部分）

設問1 あなたのお仕事について教えてください。

あなたの職場を教えてください。あてはまる数字に をつけてください。

1. 在宅・通所系サービス
2. 入所・施設系サービス
3. その他 ()

あなたの現在のお仕事の経験年数を教えてください。あてはまる数字に をつけてください。

1. 1年未満
2. 1年以上3年未満
3. 3年以上5年未満
4. 5年以上7年未満
5. 7年以上 () 年

設問2 レクリエーションの学習科目について教えてください。

「レクリエーション指導法」を学びましたか。あてはまる数字に をつけてください。

1. はい
2. いいえ → 設問3へ

「レクリエーション活動援助法」を学びましたか。あてはまる数字に をつけてください。

1. はい
2. いいえ → 設問3へ

上記、のいずれかで「1. はい」に をつけた方におたずねします。レクリエーション指導法又はレクリエーション活動援助法の現在のお仕事に対する学習の成果・貢献度について教えてください。あてはまる数字に をつけてください。

1. 非常に効果があった
2. やや効果があった
3. どちらでもない
4. あまり効果が無かった
5. 全く効果が無かった

1と2に をつけた方は、下記 へ。4と5に をつけた方は、次頁 へ。3に をつけた方は、次頁設問3へ

上記 で「1. 非常に効果があった」「2. やや効果があった」とお答えになった方のみ、回答をお願いします。具体的な効果について教えてください。あてはまる数字に 全て をつけてください。

1. グループ援助の方法
2. イベント企画・運営
3. 仲間づくり
4. コミュニケーションの促進
5. 生活動作の自立への意欲付け
6. リハビリへの意欲付け
7. その他 ()

前ページ で「4.あまり効果が無かった」「5.全く効果が無かった」とお答えになった方のみ、回答をお願いします。その理由であてはまる数字に全て をつけてください。

1. 学習内容が実践的でなかった
2. 学習内容が高齢者、障害者向けでなかった
3. 指導者（教員）が福祉現場を理解していなかった
4. 座学ばかりで技術が習得できなかった
5. 実技中心で知識が身に付かなかった
6. その他（ ）

設問3 そのほか介護福祉士資格を取得される過程について教えてください。レクリエーション指導法又はレクリエーション活動援助法以外で学んだレクリエーション関連の科目を教えてください。あてはまる数字に全て をつけてください。

1. レクリエーション実技系科目
2. 福祉レクリエーション系科目
3. その他（ ）

レクリエーション実技系科目にはゲーム、ソング、ダンス、クラフト、ニュースポーツ等が含まれます。

福祉レクリエーション系科目は福祉レクリエーション論、福祉レクリエーション援助論演習などです。

設問4 あなたのレクリエーション支援（指導）、レクリエーション関連業務について教えてください。

現在の業務にレクリエーションに関連するものがありますか。あてはまる数字に をつけてください。

1. 大いにある
2. ややある
3. どちらともいえない
4. あまりない
5. 全くない

1と2に をつけた方は下記 へ。3、4、5に をつけた方は、次頁設問5へ

前ページ で「1.大いにある」「2.ややある」とお答えになった方のみ、下記a～cに回答をお願いします。

a) 具体的な仕事の形態について教えてください。あてはまる数字に全て をつけてください。

1. 年間単位
2. 月間単位
3. 週間単位
4. ほぼ毎日
5. その他（ ）

b) レクリエーション支援(指導)を行う場合の役割・立場について教えてください。

あてはまる数字に全て をつけてください。

1. レクリエーションの専門職として
2. レクリエーション係りなどの担当者として
3. おきまりの日常業務の一環として
4. その他()

c) 具体的な仕事内容について教えてください。あてはまる数字に全て をつけてください。

1. グループレクリエーション指導
2. 個別レクリエーション指導
3. イベント・行事等の企画と運営
4. ゲームや歌、踊りなどの指導
5. 心身の機能の刺激を目的とした遊びの提供(遊びリテーション)
6. その他()

設問5 福祉・医療現場におけるレクリエーションの知識、指導・援助技術の活用と効果について教えてください。

現在のお仕事でレクリエーションの知識や技術を活用していますか。あてはまる数字にをつけてください。

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. 大いに活用している | 2. やや活用している |
| 3. どちらともいえない | 4. あまり活用していない |
| 5. 全く活用していない | |

1と2に をつけた方は下記 へ。3、4、5に をつけた方は次頁 へ

上記 で「1.大いに活用している」「2.やや活用している」とお答えになった方のみ、回答をお願いします。レクリエーション知識、指導・援助技術を活用することによって起こり得る効果はありますか。あてはまる数字に をつけてください。

- | | |
|--------------|-------------|
| 1. 大いに効果がある | 2. やや効果がある |
| 3. どちらともいえない | 4. あまり効果がない |
| 5. 全く効果がない | |

1と2に をつけた方は次頁 へ。3、4、5に をつけた方は次頁 へ

上記 で「1.大いに活用している」「2.やや活用している」とお答えになった方のみ、回答をお願いします。知識、指導・技術を活用することによって起こり得る具体的な効果について教えてください。あてはまる数字に全て をつけてください。

- | | |
|---------------------|---------------|
| 1.利用者とのコミュニケーションの促進 | 2.生活の意欲付け |
| 3.リハビリへの意欲付け | 4.個別ケアの質の向上 |
| 5.利用者同士等の仲間づくり | 6.施設全体の雰囲気づくり |
| 7.その他() | |

上記 で「3.どちらともいえない」「4.あまり活用していない」「5.全く活用していない」とお答えになった方のみ、回答をお願いします。活用していない理由を具体的に教えてください。

設問6 「レクリエーション指導法」,「レクリエーション活動援助法」を問わず、介護など福祉や医療の仕事をする上でその授業科目はどの程度重要だと思いますか。あてはまる数字に をつけてください。

- | | | |
|-------------|------------|-------------|
| 1.非常に重要である | 2.まあ重要である | 3.どちらともいえない |
| 4.あまり重要ではない | 5.全く重要ではない | |

設問7 レクリエーションの授業内容の重要度について教えてください。下記 ~ についてあてはまる数字に をつけてください。

レクリエーションの基本的理解

- | | | |
|-------------|------------|-------------|
| 1.非常に重要である | 2.まあ重要である | 3.どちらともいえない |
| 4.あまり重要ではない | 5.全く重要ではない | |

社会福祉とレクリエーションの意義

- | | | |
|-------------|------------|-------------|
| 1.非常に重要である | 2.まあ重要である | 3.どちらともいえない |
| 4.あまり重要ではない | 5.全く重要ではない | |

利用者とレクリエーション

- | | | |
|-------------|------------|-------------|
| 1.非常に重要である | 2.まあ重要である | 3.どちらともいえない |
| 4.あまり重要ではない | 5.全く重要ではない | |

集団とレクリエーション

1. 非常に重要である 2. まあ重要である 3. どちらともいえない
4. あまり重要ではない 5. 全く重要ではない

レクリエーション活動計画の作成及び実施

1. 非常に重要である 2. まあ重要である 3. どちらともいえない
4. あまり重要ではない 5. 全く重要ではない

レクリエーション活動援助者の役割

1. 非常に重要である 2. まあ重要である 3. どちらともいえない
4. あまり重要ではない 5. 全く重要ではない

治療的意味合いを含めたレクリエーション活動の必要性

1. 非常に重要である 2. まあ重要である 3. どちらともいえない
4. あまり重要ではない 5. 全く重要ではない

高齢者のレクリエーション援助

1. 非常に重要である 2. まあ重要である 3. どちらともいえない
4. あまり重要ではない 5. 全く重要ではない

障害者のレクリエーション援助

1. 非常に重要である 2. まあ重要である 3. どちらともいえない
4. あまり重要ではない 5. 全く重要ではない

設問 8 介護福祉士資格取得の学習や、取得後の業務において、レクリエーションについてお考えの点、アドバイス等ありましたら、ご自由に記入ください。

* 情報提供のお願い *

レクリエーションに理解があり、その活用や事業の実施について前向きな、事業所や施設の経営に携わる方や、ケア・マネージャー等実務を管理、統括する立場の方を探しています。皆様の周辺にご紹介いただけるような方は見えますか。下記にご記入ください

1. 経営に携わる方を知っている (紹介可能・ 紹介不可)
2. 実務管理、統括する方を知っている (紹介可能・ 紹介不可)
3. いいえ

ご協力ありがとうございました

内容面の問い合わせにつきましては、下記までお願いいたします。

(財)日本レクリエーション協会

福祉レクリエーション推進部(介護福祉士アンケート担当)

〒101-0061 千代田区三崎町 2-20-7 水道橋西口会館

TEL : 03-3265-1852 FAX : 03-3265-1253 e-mail fukushi.s@recreation.or.jp